

# ソーシャル・キャピタルと主観的健康感の関連に関する国際比較研究 —福祉レジーム論に注目して—

関西大学 赤枝尚樹

## 1. 目的

近年、社会学、政治学、経済学、社会疫学などにおけるソーシャル・キャピタル研究のなかで、ソーシャル・キャピタルと人々の健康のあいだの関連についての研究が蓄積されてきている。そして、ソーシャル・キャピタルが人々の健康を高める効果があることが指摘されてきた。しかしながら、近年の国際比較研究から、ソーシャル・キャピタルが人々の健康に与える影響については、国による差異があることも指摘されている (Huijts and Kraaykamp 2012)。そこで本報告では、ソーシャル・キャピタルや人々の健康への影響も指摘されている福祉レジーム論に注目し (Kääriäinen and Lehtonen 2006)、(1)福祉レジームがもたらす健康の差異についての検討と、(2)福祉レジームがもたらすソーシャル・キャピタルと健康の関連の差異についての検討、という二点の検討を行うことを目的とする。その際に、他の国際比較研究で用いられているように、特にソーシャル・キャピタルについては、インフォーマル/フォーマルの分類を採用し、分析を行っていくこととする。

## 2. 方法

本報告では国際比較調査である ISSP (International Social Survey Programme) 2007 のデータを用い、国レベルと個人レベルの 2 つの水準からなるデータについて分析を行っていく。特に、福祉レジームが人々の主観的健康感に与える影響とともに、ソーシャル・キャピタルと主観的健康感の関連の差異をもたらすメカニズムについても検討を行う。そのため、分析には、国ごとの従属変数 (切片) の差異とともに、変数間の関連の差異をもたらすメカニズムも検討可能なマルチレベルモデルを用いる。また、個人属性を統制したうえで分析を行っていく。

## 3. 結果

分析の結果、(1)主観的健康感については、その高さに国ごとの差異がみられること、(2)ソーシャル・キャピタルが主観的健康感に与える影響の中でも、特に友人の効果为国ごとに異なること、(3)それらのいずれに対しても、福祉レジームの効果がみられること、という三点が明らかとなった。このことは、人々の健康とともに、ソーシャル・キャピタルと健康の関連についても、福祉レジームによる違いがあることを示している。したがって、ソーシャル・キャピタルや人々の健康に関する検討を行う際には、福祉レジームをはじめとした国のマクロ変数の影響を考慮することが重要であるといえる。詳しい分析結果については、当日報告する。

## 文献

Huijts, T. and G. Kraaykamp, 2012, "Formal and Informal Social Capital and Self-rated Health in Europe: A New Test of Accumulation and Compensation Mechanisms using a Multi-level Perspective," *Acta Sociologica*, 55(2): 143-158.

Kääriäinen, J. and H. Lehtonen, 2006, "The Variety of Social Capital in Welfare State Regimes: A Comparative Study of 21 Countries," *European Societies*, 8(1): 27-57.